



京都 在宅医療

検索

詳細は順次、京都医報、当センターホームページでご案内いたします。

第4回 総合診療力向上講座

対象：医師

患者の倦怠感、医療従事者の疲労

～不定愁訴：倦怠感をどのように鑑別すべきか～

【と き】12月8日(土) 14:30～16:30

【と ころ】本 会 場：京都府医師会3階 310会議室
 北部会場：ホテルマーレたかた(舞鶴市)
 南部会場：京田辺市商工会館 CIKビル

【講 師】洛和会丸太町病院 救急・総合診療科 部長 上田 剛士氏

京都医報、案内チラシ、
当センターホームページ
で申込受付中です

京都在宅医療塾Ⅰ～探究編～

対象：医師、看護師

会場：京都府医師会館3階 310会議室

京都医報、案内チラシ、
当センターホームページ
で申込受付中です

第4回

在宅酸素療法の適応と活用の工夫

一酸素装置の種類・デバイスの特徴もふまえて～

【と き】12月16日(日) 10:00～13:00

【講 師】堺市立総合医療センター 呼吸器疾患センター長
 呼吸器内科部長 郷間 徹氏

第5回

心不全の緩和ケア

【と き】2019年2月17日(日) 10:00～13:00

【講 師】東京ふれあい医療生活協同組合 副理事長
 梶原診療所 所長 オレンジほっとクリニック
 地域連携型認知症疾患医療センター長 平原 佐斗司氏

生活機能向上研修

対象：医師、看護師、医療介護福祉関係職種など

食支援 Part

認知症の人の食を支える視点

【と き】2019年1月12日(土) 14:30～17:30

【と ころ】京都府医師会3階 310会議室

【講 師】東京都健康長寿医療センター 歯科口腔外科 部長 平野 浩彦氏

排泄支援 Part (申込開始12月15日予定)

(仮)多職種で取り組む排尿支援のイロハ

【と き】2019年2月9日(土) 14:30～17:30

【と ころ】京都府医師会2階 211.212.213会議室

認知症サポート医フォローアップ研修

対象：医師

南部会場

【と き】2019年3月9日(土) 16:30～19:30

【と ころ】京都府医師会館3階 310会議室

【講 師】高知大学医学部 神経精神科学教室 教授 数井 裕光氏

北部会場

【と き】2019年3月23日(土)

【と ころ】ホテル北野屋(宮津市)

【講 師】京都大学医学部附属病院 緩和ケアセンター緩和医療科

京都大学大学院 医学研究科 人間健康科学系専攻、准教授 谷向 仁氏

かかりつけ医認知症対応力向上地域連携研修

対象：医師、多職種

東山医師会開催

【と き】12月1日(土) 14:00～17:30

【と ころ】京都府医師会6階 601・602会議室

【講 師】林 医院 院長 林 純子氏

京都第一赤十字病院

脳神経・脳卒中科 医長 五影 昌弘氏

手越医院 院長 手越 久敬氏

京都北・上京東部・西陣医師会開催

【と き】2019年1月19日(土) 14:00～17:30

【と ころ】青蓮会館

【講 師】たなか往診クリニック 院 長 田中 誠氏

竹上内科クリニック 院 長 竹上 徹氏

京都博愛会病院 副院長 佐々木 学氏

船井・亀岡市医師会開催

【と き】2019年3月2日(土) 14:00～17:30

【と ころ】京都中部総合医療センター 5階 講堂(南丹市)

【講 師】亀岡シミズ病院 メンタルヘルス科 医長 島田 稔氏

亀岡病院 神経内科 部長 森 信人氏

京都中部総合医療センター 内科・総合内科

統括部長・内科部長・在宅医療センター 医長 佐藤 克明氏

かかりつけ医認知症対応力向上研修(集合研修)

対象：医師、多職種

北部会場

【と き】11月24日(土) 14:00～17:30

【と ころ】ホテル北野屋(宮津市)

【講 師】日置 医院 院長 日置 潤也氏

安井 医院 院長 安井 俊雄氏

京都府医師会 理事 西村 幸秀氏

京都市内会場

【と き】2019年2月23日(土) 14:00～17:30

【と ころ】京都府医師会3階 310会議室

【講 師】北山病院 院長 澤田 親男氏

京都府立医科大学附属病院 精神科・心療内科

併任教員 柴田 敬祐氏

認知症対応力向上多職種協働研修(アドバンス研修)

対象：医師、多職種

中京西部・中京東部会場

【と き】2019年2月16日(土) 14:00～17:00

【と ころ】和牛登録会館

主治医研修

南部会場

「脳卒中サバイバーの待ち受けるもの、踏み越えるべきもの」

「話す・食べるを知る」

対象：医師、多職種

【と き】2019年2月2日(土) 14:30～17:30

【と ころ】京田辺市商工会館 CIKビル

【講 師】京都桂病院 脳神経外科 部長代行 富井 康宏氏

京都桂病院 リハビリテーション科

言語聴覚士主任 久保 陽介氏

京都府医師会

在宅医療・地域包括ケア サポートセンター news

Vol. 26

2018年11月15日

京都府医師会在宅医療・地域包括ケアサポートセンター
〒604-8585 京都府京都市中京区西ノ京東桐尾町6番地 京都府医師会館3階 tel.075-354-6079 fax.075-354-6097

在宅医療・地域包括ケアサポートセンター news は奇数月15日の発行です。
※当センターホームページにてバックナンバーがお読みいただけます。

Main menu

- ◆平成30年度 第2回京都在宅医療戦略会議 開催報告 (P.2)
- ◆平成30年度 第2回総合診療力向上講座 開催報告 (P.2)
- ◆平成30年度 主治医研修 北部会場・京都市内会場 開催報告 (P.3) ◆<在宅医療あれこれ…> (P.3)
- ◆平成30年度 研修会予定のご案内 (P.4)

平成30年度 第2回京都在宅医療塾Ⅰ～探究編～ 開催報告



総合病院国保旭中央病院 副院長
総合診療内科部長 教育研修部長
臨床教育センター長 塩尻 俊明氏



10月7日(日) 総合病院国保旭中央病
院 総合診療内科部長 教育研修部長
臨床教育センター長 塩尻 俊明氏を

講師に迎え「在宅医療での神経診察」と題し、研修会を開催。医師109名・看護師46名が参加されました。

在宅診療だけでなく、日常の診療で生かせる神経所見の診断について「ツールレスな神経スクリーニング」「キーワードで神経診察」として、器具・機器を使用しない簡易な神経所見の検査方法を丁寧に教えていただきました。

診断技術については、エビデンスに沿った説明と京都府医師会 山下理事をモデルにテクニックの実際を紹介いただき、ペアワークで確認することでより理解を深めることができました。アンケートでは、医師だけでなく、在宅医療の現場で看護師が異常徴候を判断し報告する際に役立つという感想をいただきました。



● 受講者の声 ● (受講後アンケートより抜粋)

- 大変勉強になりました。在宅だけでなく、日常の診療にも活かせるよう取り入れます。(医師)
- 日常の多忙な診療の中で神経診療を行うことについては、少しハードルが高かったのですが、ツールレスで簡便にできる方法と解釈を色々と教えていただき、ありがとうございました。診療に役立てたいです。(医師)
- 目から鱗でした。明日から診察に自信が持てます。(医師)
- 苦手な分野も取り上げてくださり、大変勉強になりました。意識が変わりました。ありがとうございます。(医師)
- 看護師として Dr に報告する際、観察する視点として、改めて勉強になりました。隠れパーキンソン病についても、今後気をつけて診ていこうと思います。(看護師)
- フィジカル診察は参考書とかでは理解しにくく、分かっているつもりでも現場では使えない。この場で教えていただいたことは大変役に立った。ハンドアウトをいただき、大変良かった。グループワークよりも、このように使える知識を教えてもらう方が参加する意欲が湧く。(看護師)
- 道具を使用せずスクリーニングが行えることを学べて良かったです。訪問では、道具に限りがあるので、今後の訪問でも活かしていきたいと思いました。(看護師)
- 在宅では常時 Dr が居られないため、これらテストや徴候の有無や結果を Dr や救急へ伝達することも、迅速な対応に繋がるのかと思った。(看護師)

在宅医療に関係する質問があればお問い合わせください。サポートセンターと保険医療課で連携し回答いたします。

お問い合わせ、ご意見及びご感想は

京都府医師会在宅医療・地域包括ケアサポートセンター

〒604-8585 京都府京都市中京区西ノ京東桐尾町6番地 京都府医師会館3階
tel.075-354-6079 fax.075-354-6097

■ 平成30年度 第2回京都在宅医療戦略会議 開催報告

8月25日(土) 京都府医師会館にて、第2回京都在宅医療戦略会議を開催し、地区医師会より、23地区30名の担当役員と京都府・京都市の担当課及び関係8団体に
ご参加いただきました。



京都府栄養士会 理事
宮崎 圭子氏

会議に先立ち、(公社)京都府栄養士会理事 宮崎 圭子氏より(公社)京都府栄養士会における「在宅医療に関する取組」について、以下の事業を紹介されました。

◆ 栄養ケア活動支援整備事業

京都府栄養士会が厚生労働省補助事業として平成26年度・27年度に実施。関係機関・多職種との連携推進と人材確保を進め、管理栄養士の専門性を活かした栄養・食事支援の継続的な実施に向けての取組として、事業展開された。平成26年度に実施した「在宅栄養・食事ケアサポートに関するニーズ調査」の結果を踏まえ、在宅訪問栄養食事指導の実施に向けて、人材育成(潜在管理栄養士の発掘等)、モデル事業の実施、多職種連携の強化、医療保険制度を進める連携システムの構築について取り組んだことを紹介。

◆ 京都訪問栄養士ネット

現在、京都市(北区を除く)、向日市、長岡京市、宇治市、木津川市、精華町で、認定栄養ケア・ステーション京都訪問栄養士ネットとして、多職種との連携のもと在宅療養者を訪問し、栄養・

食事支援を実施していることを紹介。実際に調理して示すことができる管理栄養士の強みを活かして、本人の嗜好や生活環境を重視しながら、対象者に応じた食事の作り方や必要な栄養摂取について提案し、実践に向けての支援を目的として活動していると説明。

その他、京都府栄養士会の「栄養ケア・ステーション」では、食事・栄養に関する一般市民向けの相談窓口および管理栄養士による外来・訪問栄養食事指導の専門職向け相談窓口を設置し、普及啓発を図っていることを紹介し、多職種との連携の下で、在宅療養者の栄養と可能な限り口から食べる楽しみを支えていきたいと述べ、在宅における管理栄養士のさらなる活用を呼びかけて講演を締めくくられました。

北川府医副会長は、今後、在宅における摂食嚥下障害への対応が増加することが見込まれる中、管理栄養士だけではなく他の関係職種とも連携を密にして対応していく必要があると指摘するとともに、在宅療養者への食事・栄養ケアにおいて、ケアマネジャーへの声かけなど、医師が多職種連携の中で一定の役割を果たしていくことが重要であるとして、一層の連携推進を呼びかけました。

協議事項としては、「京都府 地域医療構想調整会議」、「在宅医療・介護連携推進事業」、「京都府 地域連携型在宅医療サポート病院支援事業」についてそれぞれ所管行政担当者より説明があり、参加地区医より活発な意見交換が行われました。



■ 平成30年度 第2回総合診療力向上講座 開催報告



市立福知山市民病院
研究研修センター長
兼 総合内科医長
川島 篤志氏

9月22日(土) 京都府医師会館にて、「咳問診票から COPD・禁煙支援、そしてがん検診から ACP へ」と題し、市立福知山市民病院 研究研修センター長兼総合内科医長 川島 篤志氏にご講演いただき、121名(うち、北部会場13名・南部会場15名)の先生方が受講されました。

我が国においても有病率・死亡数が年々増加している慢性閉塞性肺疾患(以下、COPD)について、咳問診票など講師が実際に臨床で使用されている

多くの資料を提示され、かかりつけ医が COPD を早期診断し、治療に繋げるための様々なアプローチをわかりやすくご講演いただきました。

講演の最後には、「Surprise question - ver.K ! (外来から始まる退院支援)」として、「もし、あなたの患者が1年以内に入院しても驚かない状態なのであれば、スムーズな入院調整に向け、患者情報の整理を是非検討してください」と呼びかけられました。

■ 平成30年度 主治医研修 北部会場・京都市内会場 開催報告



京都桂病院 脳神経内科
部長代行 富井 康宏氏



京都桂病院
リハビリテーション科
言語聴覚士 主任
久保 陽介氏

9月1日(土) ホテル北野屋(北部会場)、9月8日(土) 京都府医師会館(京都市会場)にて主治医研修会を開催し、北部会場は医師31名、多職種10名、京都市会場は医師92名にご参加いただきました。今年度は、主治医意見書の記載項目にある、「身体の状態」や「生活機能」等に大きく影響する高齢者の脳卒中への対応(急性期から慢性期、後遺症への対応)について、右記の内容でご講演いただき、参加者からも積極的に質問をいただきました。

内容

1. 「脳卒中サバイバーの待ち受けるもの、踏み越えるべきもの」
講師 京都桂病院 脳神経内科
部長代行 富井 康宏氏
2. 「話す・食べるを知る」
講師 京都桂病院リハビリテーションセンター
言語聴覚士 主任 久保 陽介氏
3. 「介護保険制度における主治医の役割と主治医意見書の記載方法」
講師 京都府医師会
介護保険担当理事 西村 幸秀氏

本研修会は、同一のテーマにて平成31年2月2日(土) 京田辺市商工会館(CIKビル)にて開催いたします。お申込みは当センターホームページにて受付中です。

在宅医療 あれこれ

— vol.4 —

意思決定に関する 気づき



西村 幸秀氏
京都府医師会 理事
京都九条病院

私は精神科医で、認知症対策担当です。本年3月に策定された「新・京都市オレンジプラン」での「10のアイメッセージ評価」では、認知症の人の思いの尊重・自己決定に対する評価が低い、との結果でした。そして認知症等で意思決定能力が低下した高齢者等に対してどのように医療・介護や生活の支援をおこなうか、も喫緊の課題です。

以下、患者さんのご自宅を訪問し「意思決定に関する気づき」につながったお話です。

60代での脳梗塞、入院治療を終え単身独居の在宅生活に復帰。退院前のカンファレンスでかかりつけ医とも連携し、後遺症として軽度の失語、巧緻運動障害、軽度認知障害も認めるも、声かけ見守りで在宅生活は可能。「リハビリを続けたい」という本人の意思で通所リハビリ開始。

ところが開始して数週間後、介護支援専門員から「最初は意欲的も、最近は元気がなく、落ち込んでいる」と相談がありました。リハ担当者と

共に自宅を訪問すると、「先生がお客さん」と大変喜ばれ、ホワイトボードでの筆談も交え、通所リハでの様子もくわしくお聞きできました。「リハビリは頑張りたいけど、しんどい」「一回りも二回りも年上の人ばかりだけどみんな良い人たち」「通所するのは好き」など、「しんどい」以外は前向きな様子で明らかな抑うつは認めず。お話を傾聴し、「お若い事もあり、周りへの気配りとか頑張りが足りませんか」とお聞きすると、「そう、一番若いから。でも誰にも言えなくて」と涙ぐまれた。ストレスを減らす目的で訪問リハという選択肢も説明し、訪問リハを希望されました。約1ヶ月後に再訪、「リハビリのおかげで」ADLも情緒も安定してました。「頑張りすぎない事も大事ですよ」とお話ししていると「また通所したい」と笑顔。現在も、通所リハと在宅生活を継続されています。

ご自宅を訪問したことで、本人の意思決定に関してだけでなく、私自身の「気づき」にもなりました。